

# オープンソースライセンス」論

以下の文章はドラフトです。PySide6についての説明が必要になるころには完成させたいと思っています。

「オープンソースソフトウェア」(OSS) は、ソースコードが公開されており、現代のソフトウェア開発において不可欠な存在です。  
あなたが `pip install` のコマンドで導入する `pandas` などのプログラムも、ほぼすべてがオープンソースです。

しかし、そのライセンスについて深く掘り下げようとすると、多くの開発者が壁にぶつかります。

その難しさの主な理由は以下の通りです。

項目	説明
法的側面	ライセンスは法的な契約であり、その解釈には専門知識が求められます。
個別具体性	同じライセンスでも、利用する状況や組み合わせるソフトウェアによって、適用範囲や義務が異なることがあります。
複合ライセンス	一つのOSSが複数の異なるライセンスで提供されることがあり、理解をより複雑にしています（例: 非商用と商用で異なるライセンスが適用されるケース）。
認知度の課題	ライセンスの具体的な内容や適用例が、一般の開発者にとって分かりにくいことがあります。
バージョンの多様性	同じ名称のライセンスでも、異なるバージョンが存在し、それぞれに細かな違いがあります。
開発現場での経験不足	普段のプログラミングではライセンスの細部にまで意識が向かないことが多く、開発者自身が法律の専門家ではないため、経験が不足しがちです。

上記のような理由から、本講座で提供されるOSSソフトウェアのライセンスにかかる情報については、著者はいかなる法的保証も負えません。  
この点は、(法的責任に限らずですが)講座全体を通してご理解いただきたい前提となります。

「法的責任を負って語る」ことは、弁護士などの専門家を除いては非常に困難です。  
もし、絶対的な法的保証を求めるのであれば、個別のケースで法律の専門家にご相談いただくほかありません。とはいえ、その専門家でさえ、解釈の相違から議論や裁判に至るケースがあるのが法的事項の現実です。

それでもいつかどこかで語る必要があるので今回ここで語るわけですが、その目的は、「安心を提供する」というよりも、あなたが危険とは思ってもいなかったようなものについて危険の範囲を示したうえで、「驚然とした不安」に苛まれないように僕なりに整理した地図をあなたにお渡しするすることです。  
以下の地図には伊能忠敬や国土地理院が作ったもののほどの精度はありません。  
ですが、今後あなたがプログラムを書きながら/導入しながら不安を抱えたとき、世界を観察し自己判断で/人に相談しながら行動するときの解決のヒントにはなるでしょう。

# よくあるライセンス

オープンソースソフトウェアの利用許諾の形は、以下の要素の複合体:

- そのソフトのソースコードを含んだソフトを作って再配布するとき...
- 自ら作った部分についてもソースコード開示の義務があるか？
  - たとえば**Linux**は開示義務あり(GPL)
  - たとえば**FFMpeg**は受け取ったソースコードを改変した場合は開示義務あり(LGPL)
  - たとえば**React**は開示義務なし(MIT)
- 商用利用するとき...
  - たとえば**Linux**では、開発元にお金を支払う必要はない(商用でも無償)
  - たとえば**MySQL**では、GPLに従わない商用アプリに組み込む場合は開発元にお金を支払う必要がある(商用の場合有償)

上記 MIT, LGPL, GPL が代表的なものだが、その派生形のようなものもあるのでよけいややこしい。  
「複数のライセンス形態から利用者側が好きなものを選ぶ」というものもある。

- Chromium:
- Googleが作成し提供した部分についてはBSDライセンスとなっている
- その他の部分についてはそれぞれ異なるオープンソース系のライセンスを採用しておりMIT License、LGPL、Microsoft Public License (MS-PL)、MPL/GPL/LGPLのトリプルライセンスがある。

## Python GUI開発で遭遇する主要ライセンス

項目	BSD	MIT	LGPL	GPL
正式名称	Berkeley Software Distribution	MIT License	GNU Lesser General Public License	GNU General Public License
商用利用	✔️ 制限なし	✔️ 制限なし	✔️ 可能	✔️ 可能
修正・改変	✔️ 自由	✔️ 自由	✔️ 可能	✔️ 可能
再配布	✔️ 自由	✔️ 自由	✔️ 可能	✔️ 可能
ライセンス表示	✔️ 必要	✔️ 必要	✔️ 必要	✔️ 必要
ソースコード開示	❌ 不要	❌ 不要	💎 修正部分のみ	✔️ 全体必要
非公開ソフトに組み込めるか	✔️ 可能	✔️ 可能	💎 動的リンクなら可能	❌ 不可
特許権の扱い	言及なし	言及なし	特許権付与	特許権付与
制約の強さ	弱い	弱い	中程度	強い

項目	BSD	MIT	LGPL	GPL
ライセンス料	無料	無料	無料	無料
企業での採用しやすさ	★★★★★	★★★★★	★★★★	★★
法務チェックの必要性	低	低	中	高

BSDもMITも、「利用者側は何の気兼ねもなく利用できる」とっておいてOK。ライセンス表記はする。ただし、その表記も当該部分には含まれていて「削除しなければOK」という場合がほとんど。  
改めてライセンスを明記する場合も、README.mdに記載するくらいでたいていOK。`

# 各ライセンスの特徴

## BSD・MITライセンス（寛容ライセンス）

特徴: - 最も制約が少ない - 商用製品に組み込みやすい - ライセンス表示のみが義務

適用例: - Python標準ライブラリ（Tkinter） - 多くのPythonパッケージ

## LGPLライセンス（制限付きコピーレフト）

特徴: - 商用利用可能だが、一定の制約あり - ライブラリとして使用する分には制約が軽い - 修正した場合はその部分のソースコード開示が必要

注意点: - 動的リンク（通常のimport）：アプリのソースコード開示不要 - 静的リンク（組み込み）：アプリ全体のソースコード開示が必要 - **PySide6の場合**: 通常のimportでの使用なら問題なし

適用例: - PySide6 - 多くのGUIライブラリ

## GPLライセンス（強いコピーレフト）

特徴: - 最も制約が強い - GPLライブラリを使用したアプリは全体をGPLにする必要 - 商用製品への組み込みが困難

注意点: - 一部のQt高度ウィジェットがGPLライセンス - 意図せずGPL部分を使用するリスクあり

# Python GUI開発でのライセンス選択指針

## 商用開発での推奨度

ライセンス	推奨度	理由
MIT/BSD	★★★★★	制約が最小で商用利用に最適
LGPL	★★★★	適切に使えば商用利用可能
GPL	★★	商用製品には使いにくい

## 実践的なアドバイス

安全な選択: 1. 学習・プロトタイプ: Tkinter（Python標準） 2. 商用アプリ: PySide6（LGPL、適切に使用） 3. 避けるべき: PyQt6（商用ライセンス高額）、GPL部分の使用

PySide6使用時の注意: - 通常のimport使用なら問題なし - PyInstallerでの.exe化も基本的に問題なし - 高度なウィジェット使用時は個別確認 - ライセンス表示を忘れずに

## PySide6とPyQt6との比較

項目	PySide6 (LGPL)	PyQt6 (GPL/商用)
商用利用	基本的に無料	商用ライセンス購入が必要
ソースコード開示	PySide6修正時のみ	アプリ全体（GPL選択時）
ライセンス費用	無料	年間数十万円～

項目	PySide6 (LGPL)	PyQt6 (GPL/商用)
柔軟性	高い	制約あり

**PySide6のLGPLライセンスは、多くの商用プロジェクトにとって実用的な選択肢です。** 通常のアプリケーション開発では追加費用なしで、アプリケーション固有のコードは非公開で保持できます。 \_